

令和7年度 第4回 丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略推進委員会

日時 令和8年1月28日（水）

10時00分～12時15分

場所 氷上住民センター 研修室

出席者（敬称略・順不同）

○委員：杉岡秀紀会長、中川フェテレウォルク副会長、八尾由江委員、前田進委員、大木玲子委員、田路正崇委員、藤井叙人委員、土田咲穂委員、石原和浩委員、古西純委員

※欠席：森田久瑠美委員、藤本理恵委員

○丹波市 細見正敏副市長

（事務局）清水ふるさと創造部長、足立総合政策課長、荻野総合政策課副課長兼情報政策係長、垣内総合政策課政策係長、村上総合政策課政策係主査

1 開 会

2 副市長あいさつ

3 報告事項

（1）主事・主査級の職員へのアイデア募集の概要について

委員：たくさんのアイデアが提案されたなかで、資料として1枚にまとめるとシンプルになる。AIに読み込ませることで大まかに分類することもできるが、どのような作業を行ったのか。

事務局：AIは使用しておらず、事務局で協議・検討のうえ、とりまとめている。

委員：AIの活用も有効で、両輪で作業を行っても良かったのではと考えている。

委員：計画自体が丹波篠山市でも記載されそうな内容で、丹波市としての特色が薄く、ポイントが絞れていないと考えている。森林資源についても記載されているが、青垣地域の製材所では、木材の価格が長年変わっていないこともあり、儲けがある状況にない。丹波市では、寒暖差の影響で強度がありながら、美しい杉が育つものの、世間では評価されていない。そういう部分も含めて、丹波市らしさが必要である。第3期丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略（案）（以下「第3期総合戦略（案）」という。）では、若い女性について記載されているものの、丹波市で生活する女性の視点でポイントを絞る必要がある。また、起業についても記載されているが、時代の流れは大きな企業に一生涯勤めるといふより、セカンドキャリアが重要であり、資格取得への支援も必要である。

委員：資料1だけでは、分かりにくいいため、資料2を含めた説明が必要である。岡山県真

庭市は、バイオマスを活用することで、林業で生活できるまちづくりを行っている。丹波市の場合は、どのような分野を特出しするのか、解像度を上げた方が良いという指摘であったと理解している。

委員：アイデアを提案した職員の男女比は把握しているのか。

事務局：集計はしていないものの、男女で提案数が偏っていたということはない。

4 協議事項

(1) 第3期丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略（案）について

委員：資料2について、高市政権が発足し、策定された国の新たな総合戦略に関する事項と人口推計に係る外国人市民の事項が追記されている。9ページ以降は、働き方や関係人口、ブランディングを含めて、第3期総合戦略（案）としてまとめられている。特に、下線部は丹波市らしさが表現されていると感じている。一方で、パブリックコメントの実施にあたり、KPI、クラスター、アンコンシャス・バイアス、ユースエール、くるみん認定、リスキリング、ランドマーク、DX、アイデンティティ、ブランディングなどの表現は注釈なしで理解することが難しいため、用語集を追記し、市民の理解が得られやすいよう工夫してほしい。

委員：具体的な手段がまとめられている。施策の具体化にあたっては、アイデアの一覧表を基に検討していくべきと考えており、しっかりと活用してほしい。SNSやAIについて記載されているが、丹波市を知ってもらうきっかけとしては有効であるものの、それだけでは転入者として戻ってくるわけでない。あくまできっかけづくりとして、丹波市でどのような体験ができるかが重要で、その体験が転職にもつながる。大学の卒業生には、都市圏で就職したが、2～3年で戻ってくる方も多い。それは、大学での経験が良い記憶として残っていることに起因している。AI関連について、6ページに付加価値の高い産業とあるが、AIに頼りすぎるのもよくない。効率化を行ったうえで、人の手で価値を付加していく必要がある。

委員：職員のアイデアについて、事務局でまとめるだけではもったいない。今後、アイデアをどのように活用していくのか。

事務局：資料2の21ページをご確認いただくと、「プロジェクトチームを構成」と記載している。今回のアイデア募集にあたり、職員にプロジェクト化した場合に参画を希望するか確認しており、第3期総合戦略（案）にはエッセンスとして、施策の具体化の段階では提案した職員が関われる仕組みにしている。若手職員の意欲を加えながら、施策をボトムアップさせていきたい。

委員：提案者を巻き込むスキームとなっており、安心している。市の職員だけでなく、市外部のメンバーとの連携を模索してほしい。また、SNS等の活用にあたっては、画面上で完結するのではなく、丹波市での体験につなげてほしい。アメリカでは、ブルーカラービリオネアという言葉が出てきている。今後、AIに変わられる仕事

があるなかで、農業やエッセンシャルワーカーの賃金が上昇している。この現象は、日本で起こる可能性もあり、これまでとは真逆の人口移動も起こるかもしれない。効率化だけで終わらないストーリーを描いてほしい。

事務局：ご指摘の意見と同じ認識で、デジタルは手段であり、浮いたリソースをどこにつなげていくか検討が必要である。今回、伝統産業などの丹波市に根付く手仕事の価値を記載している。このような分野にも、丹波市の価値があるのではと議論している。しかし、この分野を通じて、人が集まるわけではなく、他の分野で効率化できた部分を伝統産業にリソースとして振り分けることができないかなどを検討している。エッセンシャルワーカーなどは日常生活における必要なサービスの担い手であり、今後高齢者の数がピークを迎えるため、DXを推進していきたい。

委員：第3期総合戦略（案）は、文章が中心となっており、写真などを盛り込んではどうか。

委員：KPIは今回初めて提示されたと認識している。基本的方向性には若い女性の表現が記載されているものの、KPIで若い女性が表現されておらず、もう少し盛り込んではどうか。ふるさと住民や就職率など、KPIで可視化しても良いのでは。

委員：これまで、若い女性に特化した尖った議論を進めてきたが、おとなしくなっていないかという指摘である。事務局としては、どうか。

事務局：若い女性に関するKPIとして、データとして収集可能か含めて、検討したい。

委員：起業件数など、収集できる指標もある。ジェンダーの観点で難しいところもあるが、メッセージとして、検討してはどうか。

委員：手段を具体的に記載する方が良いのかどうか、分からない点はある。女性の起業を支援するうえで、チャレンジショップの無償化なども考えられ、どこまで記載するか。若い女性のUターンをターゲットとした場合、田舎に帰ることに抵抗はないものの、親の干渉があり、自立したいという意見も聞いている。住居に関する支援があれば、SNSで魅力として伝わるのではないか。今は昔と考え方も異なっている。また、施策を進めるにあたっては、市だけではなく、商工会も事業所と事業所をつなぐマッチングを行っており、継続した取組を検討してほしい。

委員：キーワードを中心として、抽象度が高い表現もある。明確にできる施策があれば、具体化することや基本目標ごとに特出ししてもよいのでは。

事務局：ご指摘の点について、認識はしている。そもそも論になるが、総合戦略は、国の支援を受けるために策定している部分もある。具体的に記載しすぎると関連する範囲が狭くなる。ご指摘の点は理解しており、写真の掲載や手段について、もう少し具体化できないか検討したい。

委員：明らかにする施策は、強調してほしい。住居に関する取組は基本目標3に記載されているが、居場所やプラットフォームなどの記載があるなかで、仕事だけでは若い

女性への後押しとして弱いのではないかという意見と理解している。事務局としてどうか。

事務局：住宅支援に関する取組は、推進委員会のなかでも委員からご意見をいただいていたが、どこに記載するか検討したい。

委員：15 ページの施策 2 - 2 にも該当するかもしれない。U・I ターンに関わらず、親と暮らすという概念が薄くなっており、公営住宅の活用を含め、近所で暮らす支援があれば、良いのではないか。最後は公民連携の話であったと思うので、商工会などを含めて、経済団体との連携を検討してほしい。

委員：ブルカラービリオネヤについて、ここにきて、揺り戻しが起こっている。現業職などの仕事を含めて、個々の施策として、女性の資格取得支援などを検討してほしい。また、4 月からは高校の授業料が無償化される。氷上西、氷上高校の教員の中には、厳しい見解をお持ちである。私立は自由に新たな科を新設でき、生徒を集めることができる。県管轄では、なかなか臨機応変にできず、兵庫県の偏差値が低いというデータもある。これは実質的に生徒が減少した影響でもある。市としても残していく活動が必要である。また、地域で月に 1 回モーニングを実施しているが、12 月には 70 人集まった。ふれあいに対する思いがあり、そのような取組が地域の活性化にもつながる。準備は、これまで役員を中心に担っていたが、現在はボランティアが大半を占めている。こども会も自治協議会に拡大して実施したところ、盛況になったため、このような取組を検討できるのではないか。

委員：柏原中学校の生徒の半数近くは柏原高校に行かないという現実があり、4 月からはより一層この現象が進行する。公立学校が選ばれなくなっており、大阪府ではどんどん統廃合が進んでいる。京都府も再編の動きが出ている。佐用町は予算化し、高校と地域とのふれあいの時間や探究の時間をつくっている。第 3 期総合戦略（案）では、高校生に関連するキーワードが記載されていない。将来の U ターンの増加を目指し、高校の魅力化を推進すべきではないか。3 つの高校がある状態は丹波市の魅力の一環である。

事務局：高校の魅力化はすでに制度化している。そのうえで、17 ページに「方向性ウ」として、まとめている。高校の支援は管轄が異なるため、市では直接実施できないが、氷上高校では昼食に関する取組を行うなど、今後も丹波市で生まれた子供たちを支援していく。加えて、第 3 期総合戦略では市外に通うこどもたちへの支援を併せて行いたい。また、3 つの高校に加え、特別支援学校についても支援していきたい。

委員：高校の無償化は大きな状況変化であり、表現は任せるが、若年層のこどもだけに支援が限定されないよう検討してほしい。市外に通う子供たちの支援は、どこまで取り組むかは留意してほしい。第一義は、市内の高校の魅力化アップを前提で考えるべきである。

委員：第 3 期総合戦略の文章が非常に分かりやすい表現になっており、今後の施策検討に

あたり、方向性が分かりやすい。そのうえで、どこに強弱をつけるべきか共有したい。基本目標1と3のロジックについて、確認したい。基本目標1は、若い女性のUターン増加を目的にしている。これまでの推進委員会では、丹波市で育った子どもたちを市外に出していると表現されてきたが、しっかりと都会で育ててもらって、Uターンにつなげるという戦略を考えるのも一つの手段である。その一方で、丹波市に帰ってくるしかない人もいるなかで、文章表現として、帰りたい人と帰ってくるしかない人の両方の考え方が混在している。ここで書き切ることは難しいかもしれないが、留意しておくべき。都会に育ててもらうなど、流出することで良くも悪くも働く側面があり、使い分けが必要である。基本目標2について、住みたいまちランキングは、実際に住むまちランキングでないため、住みたいをKPIにすべきか、回復率をKPIにしてはどうか。また、閉塞感も地方にもあるため、地域資源によって打開することは、表現として飛躍しすぎても感じる。

委員：帰るしかない人を含めて、表現は検討すべき。基本目標2のKPIをこのままの表現で記載するかどうか。

事務局：両方の側面を文章化すると、抽象度が上がる。「住みたい」という思いはなくして、住む場所が決まらないという意味では、行政の計画である以上、住みたいを前提としている。基本的には、説明を尽くす前提で進めたい。

委員：例えば、住んでよかったと思う人の割合にしてはどうか、検討してほしい。

委員：ターゲットは、自分と同じ世代であると思うが、友人と話をするなかで、丹波市にいる同世代は、結婚して子どもを育てたい人が多い。そのあたりは、都会の認識とは異なると考えている。プライベートを阻害してまで、仕事を優先させる人は少ない。魅力的な仕事を増やすより、生活しやすい環境が整っていることがまず第一歩である。住んで不便がないことが重要で、子育てや単身世帯への支援が必要である。

委員：第3期総合戦略（案）の「しごとをつくる」は良いフレーズであり、ないから作るというメッセージは良いと考えている。暮らしやすさでいうと、これまで子育て支援を中心に進められていたが、人口流出に歯止めがかかっていない。家族の考え方も変わってきており、結婚しない方々が暮らしやすい環境に丹波市がなっているか。多様な選択肢が実現できる丹波市として、メッセージが打ち出せているかである。

事務局：仕事を頑張る方への支援として、マイクロスタートアップが重要と考えており、最終的には暮らし方の応援につながるなど、仕事と暮らしを一体化した仕組みを議論している。見せ方として、若い女性を示しているが、若者支援としての奨学金支援など、若者への支援は工夫が必要である。今後、第3期総合戦略（案）で若者支援にどのように取り組んでいくか、ひとつの施策だけでは難しいが、検討していきたい。今は福祉分野のみ奨学金支援をしているが、市長公約でもあり、

内部で検討している。

委員：京丹後市では、最大 360 万円の奨学金支援を行っている。いろいろな合わせ技を検討してほしい。

委員：文章が多く、一般の方には伝わりにくい点がある。企業などとの連携は模索していくべきである。20～30代の方と話す機会があり、若い女性を呼び込むきっかけまでとはならないが、土台として大きなウェートを占めると考えている。

委員：先日選出された新たな綾部市長の公約は保育料だった。綾部市は、保育料が高く、そもそも選ばれない土壌にあった。4月からは給食費が小学校で無償化になる。高いより安い方がよいものの、財政的なバランスも重要である。子育て施策が重要であるというメッセージは弱めてはいけない。

事務局：こども家庭庁発足し、丹波市でもこども計画を策定している。第3期総合戦略(案)としては、若者・若い女性への支援に比重を置きたい。

委員：こどもの権利条例がないまちもあり、フレーズにとして触れてほしい。

委員：施策のなかで、取り組んでほしいことは、部活の地域展開である。こどもが剣道をしており、他地域へ送迎しているが、部活がやりのこどももいる。地域展開によって、こどもの楽しい場所が後退することを懸念している。費用負担が難しい家庭もあるなかで、基本目標3に送迎や施設使用料の支援など、中学性に対する個別支援も入れてほしい。部活を頑張りたいから、他県に転出するこどももあり、市内で応援できる体制を整えてほしい。また、住居や暮らしやすさの支援について、デジタルサービスだけでなく、生活に不自由を感じていない指標も重要ではないか。職員のアイデアで、映えないスポットを新聞で特集してはどうかという興味深い意見もあった。また、週末に趣味が充実することも重要で、来てもらうための魅力づくりは難しいかもしれないが、実際のプロジェクトに若手の職員が関わることがあれば、取材したい。丹波市はふるさと住民にも注力しているが、和田地域では大きな絵を振興会の壁面に飾っている。絵を描ける人を探していたところ、色々なつながりを経て、たどり着いた。新聞でも募集したものの、実際のつながりを通して、関係人口の重要性を再確認した。

委員：地域展開に対する支援、特に移動手段について支援を打ち出してほしい。また、指標についてもデジタルサービスだけでなく、様々な行政サービスに対する評価が必要ではないか。関係人口は数だけでなく、交流に発展していくか留意する必要がある。

事務局：生活に不便がないという点をKPIにしてはどうかのご意見であったが、他の自治体と比較できる観点からを含めて、KPIを選択している。部活動の地域展開については、移動そのものの支援と文化・芸術に若い時から関わる良さの2点が含まれると理解している。丹波市では、こども計画で移動支援を行うことと記憶している。文化・スポーツに関わるなかで、教員や親以外の大人と接すること

が、地域への愛着や誇りにつながる。そのあたりは、再度ブラッシュアップしたい。第3期総合戦略（案）では、人と人がつながる手段をふるさと住民の制度的な拡大で図りたい。

委員：ふるさと住民のマッチングは官民連携を模索していくべき。

委員：つながりは丹波市の大きな魅力で、私自身が地域の方に育ててもらったという思いが細胞に刻まれている。つながりがあるからこそ、大人になってから帰りたいという思いにつながった。この金曜日に義足義手でマラソンや富士山登頂をされている方を招いて、講演会を行い、200名程度の方に参加いただいた。その講演を同じ内容で、翌日に神戸市でも実施された。丹波市からお手伝いで行くと、30名程度しかおられなかった。SNSもしっかりと発信されていたが、違いはつながりがあるかないかとの意見があった。各家庭や学校を根気強く回することで、自分の子供に聞かせたいという保護者の思いにもつながり、丹波市につながりの強さを実感した。農福連携の一環で黒豆のオーナー制度があり、そのことがきっかけで今回の公演につながっている。オーナー制度だけでなく、田舎の景色がリピーターにつながっており。丹波市に来てくれたら、引き留める魅力がある。関係人口は丹波市の魅力を体験につなげる取組である。丹波市のなかに会社をもっとできたら、学ぶ場所が増えるなど、ないものが増える発想も理解している。個人的には、「変差値」が重要な時代で、丹波に暮らしたいために、大阪のお店を閉めて、丹波市に来られる方がいる。そんな魅力が丹波市にはある。また、こどもまんなか社会を進めていくなかで、こどもサポーターの募集について、市から提案があった。対象となる団体があるものの、登録者数が少ない現実がある。登録の特典は、プレートの交付とHPでの紹介となっている。登録はするものの、自分達の行動の評価として考えると、支援としては適切かどうか。支援の中身を検討することが重要である。孫が大きくなった未来を考えたときに、計画が見やすくなってきた中で、実現するよう願っている。

委員：「変差値」は良いフレーズである。それが認められる社会が良いまちである。最後にまとめをしたい。第3期総合戦略（案）の策定にあたり、次の点を検討してほしい。

- ・写真やイラスト、用語解説について検討すること。
- ・基本目標ごとに、施策を特出しして記載するか検討すること。キーワードとして、高校・単身世帯・部活、こどもの権利などが意見としてあり、KPIを含め、検討すること。
- ・職員のアイデアについて、第3期総合戦略（案）には具体的に記載されていないため、どこかに言及してほしい。
- ・丹波市らしさや特色ある計画にしてほしい。
- ・副題について、意見がある場合は、事務局に提言してほしい。

- ・今回の意見を反映した案について、パブリックコメント実施前に各委員へ報告すること。

5 次回推進委員会開催日程

令和8年度 第1回丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略推進委員会

日 時：令和8年6月頃予定

場 所：未定

6 閉 会